



## 12 青磁鳳雲文花瓶 初代諏訪蘇山

一対

大正八年（一九一九）陶磁  
各径二四・〇、高四六・五

胴部に向かい合う鳳凰と雲気文、首部に円形に密集した雲気文、下部には如意頭文と連弁文を組み合わせて浮文様で表し、薄緑色の淡い青磁釉をかけた花瓶。作者の初代諏訪蘇山（一八五一〜一九二二）は、中国南宋時代の龍泉窯産の青磁を自らの理想とする青磁とし、その青磁釉の再現を追究した。蘇山にはこの龍泉窯青磁の本歌を忠実に再現し、胴部を素文とした《青磁鳳凰耳花瓶》（東京国立博物館所蔵）も残しているが、本作では器形にも工夫を凝らし得意とする彫刻技術を發揮した文様構成とするため、成形型を作って制作している。

初代諏訪蘇山は金沢出身、陶画法を学んで東京で陶画業を営むなかでフェノロサやワグネルらの知己を得て教えを受けた。その後、再び金沢へ戻って九谷焼に従事、明治三十三年には京都の錦光山宗兵衛の工房に勤めた。四十年に独立、大正六年（一九一七）に帝室技芸員に任命された。九谷焼のみならず、中国朝鮮古陶磁にも造詣が深く、彫刻技術にも優れていた。本作は宮内省の依頼を受けて、青磁香炉とセットで制作され、箱書には「大正八年十二月 諏訪好武（印）奉命謹製」と記される。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shozokan